

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月7日(月)

会 場:君田生涯学習センター

参加者数:32人

参加者の発言	市の発言	備考
観光資源の整備が不足している。高幡観音への林道の落石、側溝の整備をお願いしたい。観音洞の中が崩落しているので修繕してほしい。高幡山頂上が樹木によりさえぎられて景観が望めない。維持管理に努めているが、整備をしてもらいたい。	・林道及び山頂の整備の状況を把握したうえで対応を検討したい。 ・文化財の整備は所有者が実施するのが原則である。安全対策(崩土)に考慮したうえで、文化財保護については相談していただきたい。	
君田温泉のソフト・ハードに対する支援を強化してほしい。君田町観光協会では資源を活かした観光客誘致を行っている。神之瀬峡自然公園、森の散歩道等、森の泉周辺のおはよう市、はらみちを美術館を活用することに努力している。森の泉を中心とした取組を行っている。森の泉は築24年、決算が2期連続で赤字である。第3セクターであり、行政と住民が一体となって今一度経営の見直しをすべきではないか。神楽門前湯治村では行政が経営診断をした。堂本副市長には取締役会に出席していただき、取締役の機能強化を図ってほしい。	副市長就任後は取締役会に出席し、熱心な議論を行っている。経営がすぐに駄目になる状況ではないが、このままではいけないことは理解している。しっかりと意見交換している。赤字の改善について議論しているところである。	
集落支援員のネットワークを立ち上げた。支援員同士で交流しながら意見交換している。定住・空き家対策が提案できるような場を作ってほしい。	集落支援員の制度は平成28年から導入し、現在11名の集落支援員に業務を担っていただいている。「ずっと住み続けたいまち本部」を立ち上げた。引き続き力を借りながら、連携、協力していきたい。	
県道下門田泉吉田線の通行止めが続いている。早期の復旧について市からも働きかけていただきたい。	落石のため通行止めのままとまっている。市でも状況は把握している。今年度、広島県が護岸工事等を計画されている。ダムに近い箇所について、再度、広島県に申し送りしたい。	
空き家対策について、空き家バンクの登録が52件、君田では1件と登録数が少ない。Uターン、Uターン者への補助の枠を広げてもらいたい。	昨年度、空き家バンクへの新規登録が34件あり、市外からの相談が356件あった。そのうち25件を現地案内し、7世帯15人が三次に定住された。また、制度対象とならないが、市民間での物件取引も16件あった。この制度については、固定資産税の納付書発送時や広報みよし配布時に、空き家情報バンク制度紹介のチラシと一緒に配布し、周知を図っている。Uターン者に対しては、住宅取得費用の一部、また、本年度、利用条件を緩和した住宅改修時の費用の一部を補助する制度がある。引き続き、社会情勢等を勘案する中で、制度の見直しも行いながら活用を促していきたい。	
妖怪博物館に三次の他の観光案内がない。妖怪博物館に来た人が、観覧後に何処を回遊しているか、どのような行程で来られているか調査が必要ではないか。三次人形、阿久利姫、鶺鴒、鳳源寺、人形館などの情報をボタン一つで案内ができるような装置ができないか。神楽と妖怪とのコラボができないか。市民ホールでの三次神楽共演大会、森の泉定期公演など、たいへん人気があり、集客ができる。妖怪博物館とのコラボができるのではないかな。	交流館では三次の観光施設の紹介を行っており、パンフレットも設置している。観光まちづくり機構(DMO)でも取り組んでいるが、十分ではない。アンケート調査をするよう準備している。引き続き情報発信に努めたい。オープン行事では神楽人気が高かった。今後も行事の際には出演していただくよう考える。	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月7日(月)

会 場:君田生涯学習センター

参加者数:32人

参加者の発言	市の発言	備考
君田地域には防災士が5名しかいない。7地域あるが、3地域にしかいない。防災士の受験費用は出るが、旅費は出ない。防災士の養成講座が遠方で開催されるため、旅費についても支援をお願いしたい。	今年度、旅費の予算化はしていないが、今後の課題として認識する。	